

博物館明治村 阿川佐和子村長と・・・

日本の古典芸能『地唄舞』を知る！ 観る！



西園寺公望別邸「坐漁荘」(重要文化財)

三味線音楽である地唄を伴奏として舞う「地唄舞」。
重要文化財「西園寺公望別邸『坐漁荘』」を舞台にした、「舞」の世界感をお楽しみください。
演劇評論家・渡辺保氏(芸術院会員)と、地唄舞「神崎流」の応援団長で明治村村長の阿川さんとの対談形式の解説に加えて、呈茶で秋の一日をお過ごしください。

開催日時 平成30年11月18日(日) 17時～18時30分(事前予約制)

会場 博物館明治村内 西園寺公望別邸「坐漁荘」

参加費 5,000円(明治村入村・明治村直営駐車場代を含む)

- 内容
- ・数寄者・木田公洋氏による呈茶
 - ・演劇評論家・渡辺保氏(芸術院会員)と阿川佐和子氏(明治村村長)による対談形式の「地唄舞」についての解説
 - ・地唄「黒髪」(舞 神崎流 神崎えん家元)



渡辺 保氏



阿川佐和子村長

※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※

神崎えん (地唄舞 神崎流 四世家元)
父である三世宗家秀珠の膝下にて、二世宗家神崎ひでに、昭和58年よりは武原はんにも師事を受けるなど、地唄舞一筋に打ち込む。平成11年には「第30回日本舞踊批評家協会賞新人賞」を受賞、四世家元を襲名。神崎流地唄舞研究会を継承し、主催。平成23年にはバリ・日本文化会館で公演を行うなど、日本の伝統芸能である地唄舞の伝承、発展に尽力している。

地唄舞とは
日本の古典舞踊には「舞」と「踊」があり、「舞」は「能」の動きに見られるように、回転、旋回する動きを、「踊」は解放的に跳躍する動きを指す。
「舞」を座敷で、三味線音楽である地唄を伴奏として舞うのが「地唄舞」の初期のかたち。
神崎流は、初代が大阪から東京へ移り創流、現在は四代目の神崎えんが継ぐ、東京で生まれた唯一の地唄舞の流儀。

※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※ ※※※※

「日本の古典芸能『地唄舞』を知る！ 観る！」鑑賞申込用紙

(下記、ご記入の上、FAXをお送りいただくか、お電話でお申し込ください。折り返し、参加券をお送りいたします。)

ご芳名	
会社名	
ご住所	
電話番号	

お問い合わせ・お申し込み・・・

博物館明治村 電話 0568-67-0314 / FAX 0568-67-0358